

# 夜のゲームセンター 一裏の駐車場　ハ ダカの男女の出会い いとエッチ

この街へ越してきてしばらくした時の  
話・・・セフレたちのスーツを抱えて  
クリーニング屋へ行く道のり。

その途中に改装後、営業を再開したゲームセンターがある。

隣にカラオケやフットサルグラウンドボーリング場などがあるそこそこ大きなアミューズメント施設である。

引っ越してきた当初、毎晩セフレたちと

部屋でエッチをする日々の中、そのアミューズメント施設にも何度か足を友人たちと運んだことがあるのだが、

・・・・・・・・・・この日は・・・

帰りに近くのバーへ立ち寄った。

確か小雨が降っていたが、バーに入る頃

には止んでいた記憶。

ウォーキングの通り道となっていたその周囲、オシャレっぽくて酒をたまに飲むので気にはなっていた。

その時間も・・・・部屋でハダカお尻のお姉さんは可愛く下着の紐を指で触っていた。

.....。

越してきたしばらく半年くらいは真っ  
白下着のエッチの日々が続いたが、

最近は仕事に追われ少なめ.....。

少し怠惰になりかけたのでジムで体を  
フィットネスで引き締めて細くて健康  
的で華奢(きゃしゃ)な状態をキープ・・・。

女子たちの太ももとお尻はしっかりと

引き締まっている状態。

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ○

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ○

空の光が直射日光で肌を指すように鋭  
いある朝・・・。

道路の一日 . . . . .。

曇り空を見上げながらポケットにはいつも通り高性能な Wi-Fi が入っている。



.....。

そして夜になり、ゲームセンターの駐車場でベンチに座ってスマホを触っていた.....。

すると、あの時行ったバーで出会った女性がそこにいた.....。

ベンチに座り足を組んでいた。

夏前の夜、スマホを持ってベンチに座っている。涼しい……。手には缶コーヒー。

バーのお姉さんはその時、ラブホテルに

いた。

自動車が一台、駐車場から閑静な住宅街の道路へ出て行った。

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ○

既にゲームセンターの営業は終わっており、店内からスピーカーの調整音。

ベンチでしばらくゆっくりして……  
紙カップコーヒーなどを飲みながらスマホを触っていた。

お姉さんが隣に現れ、ベンチに座る。

ジーンズの太ももとお尻がくっきり暗  
めの駐車場でも見えた。

彼女はエリハさんという名前。ムッチム  
チの太ももの上部にそっと手を触れて  
足を寄せた。

少し見上げると駐車場の歪な形の天井。

白い蛍光灯に群がる虫たち。

彼女に会うまでは、そのまま自宅マンションに戻ろうと思っていた。

徒歩20分ほど・・・。

スカート丈が膝と一致している。丁度いい具合のホットパンツ。ムッチムチの太

もも・・・・。

「お酒は飲まれるんですか？」

しばらく誰もいないゲームセンターの裏で会話をしていたが、そこへもう一人、背丈の少し高い黒髪のお姉さんが通りかかった。黒いジーンズを穿いている。同じくスカートはムッチムチ。

セフレのスーツは・・・・どんな夜でも  
ゴロゴロと落っこちている。転がるよう  
に・・・・。

・・・・バーの夜は確かバスタオル。  
今週初めにも出した服のクリーニング  
は仕上がりまであと三日である。

夜のバランスと・・・・歪な鉄の屋根。



白い蛍光灯と女子。

通りかかった背の高いお姉さんと横の  
彼女は顔見知りのようである。

二人ともおっぱいは程よく巨乳……。

夜の駐車場は天井の蛍光灯で少しだけ  
白くまぶしい。

近くの川音と水面の音が聴こえる穏や  
かな夜である。

たまに通りかかる車。

お姉さん二人は無表情で怪しい雰囲気も感じないわけではない。

そっと二人俺の左側の隣に座った。

夜の駐車場の白い蛍光灯・・・・。

・ ・ ・ ・ ・ 他には誰もいない。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)